

題材名「抽象画で喜怒哀楽を表現する」

学校	奈良大学附属高校	氏名	中井 文平	科目	美術Ⅱ	学年	2	時間	10
----	----------	----	-------	----	-----	----	---	----	----

1 題材の目標

<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を色彩や感覚などの造形要素について理解を深めるとともに、絵の具の特性を生かし、表現の意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かに創造的に表すことができる。 <p>〔共通事項〕、「A表現」(1)イ</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会や生活の中から感性を磨き、独創的で創造的な視点で構想を練ったり、表現の意図や創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、造形的なよさや美しさを感じ取ることができる。 <p>「A表現」(1)ア、「B鑑賞」ア(ア)</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 抽象画や抽象表現の鑑賞を通して、表現の工夫について多様な視点から考え、感性と美意識を高めようとする。

2 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 抽象表現について、色彩や感覚などの造形要素について理解している。</p> <p>技 絵の具の特性を生かし、表現の意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かに創造的に表すことができる。</p>	<p>発 独創的・創造的な視点で構想を練り、個性豊かに表現している。</p> <p>鑑 抽象画の造形的なよさや美しさを感じ取り、見方や感じ方を深めることができる。</p>	<p>態表 抽象画や抽象表現の鑑賞で感じ取ったことをもとに、新しい視点で、表現に生かそうとしている。</p> <p>態鑑 抽象画や抽象画表現のよさや美しさを感じ取り、感性と美意識を高めようとしている。</p>

3 主な題材の学習内容と評価

学習のねらい、学習活動	評価方法
<p>※「●」は、学習のねらい、「・」は、学習活動</p> <p>●美術史上の作品や、身の周りにあるもののデザインなどから抽象表現とは何か、その可能性の広がりを考え、理解を深める。(3時間)</p> <p>・マーク・ロスコの作品を鑑賞し、社会の中での美術作品の意義や意味を考える。</p> <p>・パウル・クレーの天使シリーズの「忘れっぽい天使」を鑑賞・模写をする。次に「泣いている天使」を創造しながら描く(作品①)。他の人の作品を鑑賞したのち、クレーの作品を実際に鑑賞すること</p>	<p>(知識・技能)(思考・判断・表現)</p> <ul style="list-style-type: none"> 美術だけでなく、音楽と美術が共鳴し新しい芸術が生まれたことや、これからの美術の表現にもそれらが影響していることを理解している。 <p>(主体的に学習に取り組む態度)</p> <ul style="list-style-type: none"> パウル・クレーや、カンディンスキーなどの表現の特徴や、造形について考え、自分なりの言葉、感覚で理解し、表現に生かそうとし

<p>で、見えないものであっても表現することができることを学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> クレーの「花ひらいて」を鑑賞し、イメージや色彩について考える。 カンディンスキーの作品を鑑賞し、絵画表現と音楽の関わりについて考え、カンディンスキーに影響を与えたシェーンベルクの「弦楽四重奏曲第2番 op. 10」や「3つのピアノ曲 op. 11」などの音源も同時に鑑賞する。 エリック・サティの「家具の音楽」を鑑賞し、インテリアデザインなどが音楽に与えた影響も知る。 自分の好きな音楽は何色か?など自身に身近なテーマから、抽象表現のためのイメージ出しを考える。 <p>●様々なアプローチを用いて、「喜怒哀楽」のイメージを抽象表現するための構想を練る。(4時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「喜怒哀楽」の各感情に対するワードをスケッチブックに50個出す(作品②)。そのワードからイメージを高め、それぞれのイメージを具象的なものや、文字を使用せずに同じく色鉛筆などでアイデアスケッチをする(作品③)。 <p>●自分のイメージをしっかりと捉え、抽象的な表現を工夫する。(3時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「喜怒哀楽」それぞれのスケッチを1枚の絵画として再構成していく。その中で、自分の表現したいことなどをふまえ、どのように四つの感情を画面に構成するか考えて制作する。(作品④) 	<p>ている。</p> <p>【授業様子、発言内容、ワークシート】</p> <p>(知識・技能)</p> <ul style="list-style-type: none"> 色鉛筆や絵の具などの画材を表現に合わせて活用している。 <p>(思考・判断・表現)</p> <ul style="list-style-type: none"> 50個のワードから、さまざまなイメージや色彩、造形を表現している。 <p>【授業様子、発言内容、ワークシート、アイデアスケッチ、作品】</p> <p>(知識・技能)</p> <ul style="list-style-type: none"> 抽象表現の造形要素を理解し、構成している。 <p>(思考・判断・表現)</p> <ul style="list-style-type: none"> 独創的な視点で個性豊かに表現している。 <p>(主体的に学習に取り組む態度)</p> <ul style="list-style-type: none"> 抽象画や抽象画表現のよさや美しさを感じ取り、感性と美意識を高めようとしている。 <p>【授業様子、ワークシート、作品】</p>
---	--